



真宗大谷派旭川別院

旭川別院だより

秋号
2021

発行所 真宗大谷派 旭川別院
輪 番 太田 法生
〒070-0030 旭川市宮下2丁目
TEL.0166-22-2409
FAX.0166-22-2411

■印刷:植平印刷株式会社
■旭川別院ホームページ

真宗大谷派旭川別院 | 検索

見てびっくり③



蘭越町 光福寺住職

金石 晃 陽

仏教とは、本来、「私」自身を明らかにして下さる教えであります。それと同時に、この私の生きている「世」を徹底して教えて下さいます。では、私の生きている「世」とは、どのような社会なのか、と言いますと、「たての世」なのであります。つまり、すべてのつながりを「上下関係」で見ない。常に自分の位置が気になる。少しでも自分を高い位置に置きたい。そして、上を見ては、劣等感に陥り、下を見ては、優越感に浸っていく、これを「たての世」と言っているように思います。

私は、すべての「いのち」は、みな平等に輝いていると教えて下さいました。しかし、私たちは、その輝いている「いのち」が見えないのです。なぜ、見えないのかと申しますと、「いのち」に限りなくレッテルをはっていくからでしょう。

ある春の日でした。自坊にあった大谷幼稚園の園児が、「園長先生、ダイヤモンドを見せてあげる。」と言って、空き缶をもつてとんできました。空き缶をのぞくと、毛虫がウヨウヨ。思わず「ギャー」と叫んでしまいました。ところが、「ぼくのダイヤモンド」と輝く瞳にハッとしました。私たち人間は、毛虫のことを害虫と

呼んでいます。毛虫は自分のことを害虫だとは思っていません。毛虫は毛虫にたまわった「いのち」を精一杯生きているのです。人間だけなのでしょう、害虫とか益虫と言っているのは。これこそ、人間の勝手な都合でつくった「ものさし」で「いのち」にレッテルをはっている証しであります。毛虫の「いのち」が見えないということは、人間の「いのち」も見えなくなつたのです。

ある新聞の川柳のコーナーに奥さんが自分の夫をうたった一首がありました。「粗大ゴミ」とは、「もの」であって「いのち」ではありません。

平座・同座にて

蓮如上人は、「平座にて」とか「同座して」とよく仰せになりました。「平座同座」というのは、単に形だけ、一緒の座に座られたということではありません。すべての人の中に、何物にもかえられない「いのち」の輝きを生きる御同朋の発見であつたのです。

蓮如上人は、お念仏の中で、出遇われ

た人々を「御同朋・御同行」と呼ばれ、親しく「平座・同座」して、語り合いを続けていかれました。このような蓮如上人の歩みを決定させたのは、親鸞聖人の「親鸞は弟子一人ももたずさうろう」のお心を大切に頂かれたからでありましょう。先年、お亡くなりになられた住井すゑさんの本の中に、「子供を尊敬できなかったら、親とはいえません。」という言葉がありました。家庭にしても、学校にしても、どうしたら、子供から尊敬される親に、教師になれるのだろうか、と、そればかりを問うてきたのではありませんか。私自身、本当に子供を尊敬してきたのであろうかと、今も問われ続けられています。

蓮如上人は、何よりもお念仏申す人を尊敬されたのです。そして、どのような生き方をされている方々からも教えを聞かせて頂ける私にまで育てて頂いたという、感動があつたのであります。う。だからこそ、「私のいたらない点があつたら、たとえ陰口でもいいから、言つてほしい。やがて私の耳に聞こえてきたなら、なおしましょう」とおっしゃったのです。また、仏法に生きる人が生まれたなら、「老いの皺がのびるほどうれしい」とおっしゃいました。これもみな、お念仏に生きる人々、すべての中に、輝く「いのち」を生きる諸仏を見出し、出していけた、そのことが「御同朋・御同行」の世界を開いていかれたに違いありません。

知恩と報恩

昆布大谷幼稚園の、ある年の報恩講の朝、私は、園児に尋ねました。「報恩講」というのは、私が、何のために人間に生ま

れてきたのかを考える日です。みんなは、何のために、人間に生まれてきたと思いますか。ある男の子が答えてくれました。「ぼくは、動物や小鳥を守るために生まれてきたと思います」。私は、思いつき拍手をしました。

他の子も、続けて「動物やお花にやさしくするため」、「地球の平和を守るため」、「何かアニメのヒーローかな」と思いながら、「園長先生も、そう思うよ」と、大きな拍手をしました。最後に幼稚園の最年少の子が、答えてくれたのです。「ぼくは、仏さまに、ナムアミダブツというために、生まれてきたと思います」。

私の目は、涙で一杯になりました。私たち大人は、信仰と言いますと、自己中心的な欲を満たすことしか考えません。自分の都合を振りかざす結果、かけがえのない人間関係を、そして自然との関わりを忘れ、「いのち」に、老いとか若いとか、男とか女とか、善人とか悪人とか、身体の不自由な人、民族、出身、学歴、地位、肩書きと、限りなくレッテルをはって、分けていつてしまふのでしょうか。そして、レッテルを比べては、優越感と劣等感の間を、いつたりきたり、しているではありませんか。

仏の本願は、特定の人に呼びかけているものではありません。「十方衆生よ」、「生きとし生けるものよ」と、すべての「いのち」に呼びかけていて下さるのです。その本願に応答したのが、ナムアミダブツなのです。「仏さまに、ナムアミダブツというために、人間に生まれてきた」と答えてくれた、幼な子の言葉に、戦争や自然破壊、様々な差別を生きる私たち現代人に、大切な世界を見失ってきた、その失ってきた世界にこそ、人間が人間を回復していく、確かな一本の方向が与えられたように感じられました。

親鸞聖人は、あの動乱の鎌倉期、「いのち」が見えなくなった時代に、ナムアミダブツの本願を生きて、「御同朋・御同行」と呼びかけていかれた世界を、現代において、私たち一人一人が獲得していくことが、親鸞聖人のご恩に応えていく大事なことである、思われてなりません。

法座・行事案内予定

10月

1日	午後7時	公開学習会	泉山 明光師
7日	午後1時	群萌の会	列座
8日	午後1時	マヤの会	列座
13日	午後1時	初心の集い	輪番・列座
16日	午後1時	同朋の会	列座
16日	午後7時	同朋の集い	列座
18日	午後10時	婦人会	列座
随時	午後1時	報恩講門徒協議会	列座
随時	午後1時30分	あゆみ会	実行委員

11月

1日	午後5時	旭川別院報恩講	
(2日・3日)	寺澤 三郎師		
13日	土別 教証寺 住職		
(4日・5日)	金石 晃陽師		
南3組	蘭越昆布町 光福寺 住職		
7日	午後1時	群萌の会	列座
8日	午後1時	マヤの会	列座
16日	午後1時	同朋の会	列座
18日	午後1時	婦人会	列座
20日	午後7時	壮年の集い	列座
随時	午後1時30分	あゆみ会	列座
※御正忌の集いは本年はありません。			

12月

1日	午後7時	公開学習会	泉山 明光師
7日	午前11時	群萌の会報恩講	輪番
8日	午前11時	マヤの会報恩講	輪番
13日	午後1時	初心の集い	輪番・列座
16日	午後1時	同朋の会報恩講	輪番
18日	午後10時30分	婦人会報恩講	輪番
31日	午後11時40分	初鐘	列座
随時	午後1時30分	あゆみ会	列座

1月

元旦	午前零時	修正会	列座
16日	午後1時	同朋の会	列座
17日	午前11時	群萌の会初顔合わせ	列座
18日	午前10時	婦人会(かるた大会)	列座
中旬(予定)	旭川別院門徒新年会・壮年の集い初顔合わせ		
随時	午後1時30分	あゆみ会	列座

※コロナ感染状況により、行事の変更もあります。ご了承下さい。

輪番感話 ⑥

今から六〇年前の一九六〇年頃、私は五
六才の頃だと記憶しているが、当時ポリ
オという感染症が大流行したことがある。
小児がポリオに感染すると、稀に小児麻痺
がおこり身体的障がいを残す大変恐ろし
い病気であった。当時は国産のワクチンが
なく、連日厚生省へお母さん達が詰め寄
り、ソ連製ワクチンの獲得にむけて、副反
応や効果、治験の乏しい中、慎重であった
厚生省を動かしたのはお母さん達で、政府
はイチかバチかの選択であったそうである。
当時、町の診療所で嫌がる私に、生ワク
チンを投与され、今まで口にしたことのな
い甘美な味に、驚きをもったことをはつき

りと覚えているのである。
さて、世界的脅威をもたらした昨今の
「新型コロナウイルス」蔓延も、ワクチンの
接種によって徐々に終息に向かうと思う
が、副作用や変異株、ワクチンの効果も未
知数の部分も多く、マスクを外せる日はま
だまだ遠いようである。
親鸞聖人が八十八才のお手紙（末燈鈔）
に、「なによりも、こそことし、老少男女お
おくのひとびとの死に合いて候うらんこ
とこそ、あわれにそうらえ。ただし、生死無
常のことわり、くわしく如来のときおかせ
おわしましてそうろうえは、おどろきお
ぼしめすべからずそうろう。」

（何といっても去年と今年、老若男女多く
の人が死んでいかれることは、悲しいこと
です。しかし、生死無常の道理は、如来の教
えを聞かせていただくならば、驚くような
ことではありません。）
いつの時代においても、疫病が流行し恐
れられてきた歴史だが、感染症だけではな
い。何時でも何処でも生死無常の縁かぎり
なき現実を今、生きているのである。
さあ今こそ「親鸞聖人御誕生・立教開宗
八百五十年慶讃」テーマ【南無阿弥陀仏】
「人と生まれたことの意味をたずねていこ
う。」

（太田 法生）



公開講演会

秋季彼岸会法要報告

コロナ緊急事態宣言中により公開講演会は中止、
秋季彼岸会法要は院内で御参りさせて頂きました。



真宗大谷派

旭川別院

報恩講

2021年

11月1日～5日



報恩講講師

11月4日・大遠夜／5日・晨朝・満日中



かないし
金石 晃陽 師
(南3組 蘭越昆布町 光福寺 住職)

11月2日・遠夜／3日・遠夜



てらさわ さぶろう
寺澤 三郎 師
(13組 士別 教証寺 住職)

謹啓 秋晴の候、御門徒
各位には益々ご清祥のこ
とと存じ上げます。
さて、旭川別院宗祖聖人
報恩講は、新型コロナウイルス
感染症の終息が見込
めない為、やむなく規模を
縮小いたし、お斉等の食事
の接待を致さないことと
なりました。
例年報恩講実行委員会
のお手伝いとしてご尽力
を賜って頂きましたが、本
年は報恩講にご参詣下さ
いまして、次年度のお手伝
いには、再度宜しくお願
い申し上げます。
合掌

旭川別院輪番

太田 法生

旭川別院報恩講

実行委員長

佐古 光臣

日	法要	6日	5日	4日	3日	2日	1日
		土	金	木	水	火	月
晨	朝	7時 (院内)	7時勤行 (法話あり)	7時 (院内)	7時 (院内)	7時 (院内)	
日	中		10時勤行 (法話あり)				
遠	夜			14時勤行 (法話あり)	13時半勤行 (法話あり)	14時勤行 (法話あり)	14時 (院内)
	御伝鈔				15時半		

※院内は、別院の輪番・列座だけのお勤めです。法話は
ありません。

報恩講日程(予定)

仏法 こあ れれ

道内御法話巡り



雨竜郡 北竜町
法光寺住職

奥田 和寛

「悲しみは悲しみを知る悲しみに救われ、涙は涙にそそがれる涙にたすけられる」
『歎異抄領解』
(金子 大栄)

私は現在子育てに悩んでいます。娘は中学二年生、息子は小学六年生と思春期の反抗期を迎え、不安や苛

立ちを抱えながら親へ反発してきます。思春期の子供が、親の言うことに反発するのは当然のことと理解しつつも、以前とは違う子供の言動を受け止めることができずに、ついつい子供に注意をしてしまいます。

親としては、「子供のためを思つて」と注意をしますが、なかなか思い通りにはなりません。それでも「子供のためを思つて」色々頑張つてはみますが、全てが上手くいきません。そのため知らぬ間に「子供のためを思つて」と言いながら、こちらの考えを押しつけ、裁き、思い通りの子供に育てることに終始してしまい、気づけば子供との溝は深まるばかりでした。

その結果、私にとってショックな出来事がありました。息子が登校する際のことです。妻は出来る限り息子が、登校するのと同時にゴミ出しをし、曲がり角を曲がるまで息子を見送っています。周りの子供たちより幼い息子は曲がり角に行くまで何度も母を振り返り、手を振り登校し

ているようです。そんな微笑ましい出来事を聞いた私は数日後、妻の代わりにゴミ出しをし、息子のことを見送りました。何度も振り返り、手を振ると聞いていたので、いつ振り返るかと期待しながら息子を見送りました。けれど息子は一度も振り返ることなく、曲がり角を曲がり登校しました。その息子の後ろ姿は「お父さんなんて大嫌いだ」と息子が声なき声として叫んでいるように感じました。

この息子の後ろ姿によって、私は自分の考えを押しつけ、裁いてばかりの、傲慢な父親であると気づかされました。そして、今まで子供たちの気持ちに寄り添うことなく過ごしてきたことに、「ごめん」と頭が下がりました。しかし、この領きは決して絶望ではないのでしょうか。むしろ息子の後ろ姿こそ仏からの呼びかけであり、そこに現実に丸裸にされた自身の偽らざる姿に「はい」と頷いていくことが、教えを聞いていくことに他ならないと今感じています。

初鐘並びに修正会のご案内

日程

- 初鐘
令和三年十二月三十一日 午後十一時四十分より開始
 - 修正会
令和四年一月一日 午前零時より開始
- 場所
・ 初鐘 鐘樓堂前 ・ 修正会 本堂

お年始参りのご案内

期 間 一月六日～三十一日まで

- ご案内の日時につきましては、事前にハガキにてご連絡させて頂きます。尚、この年始参り中の月忌参りはお休みとさせて頂きます。
- 一月中にご法事等を予定のご門徒様は、十二月十五日迄に別院にご連絡のうえ、調整願います。

旭川別院冊子

「燈炬」(一)

此の度、旭川別院だより
にこれまで寄稿頂いた先生
方の文を本に致しました。
報恩講の四日は連夜、五日
は御満座で贈呈致します。
(その他、希望の方も申し
出下さい。)

燈
炬
(一)

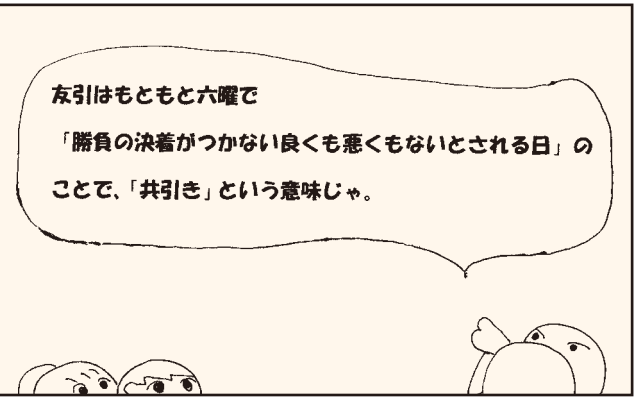
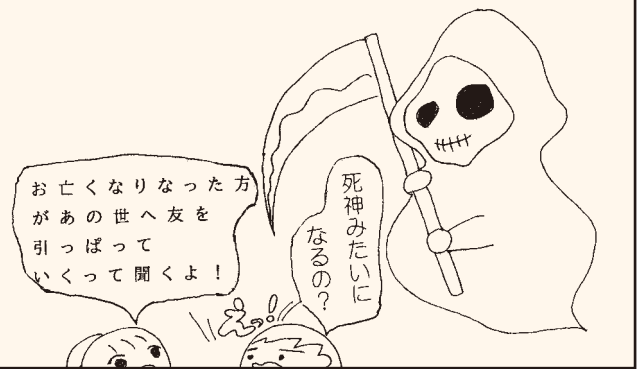
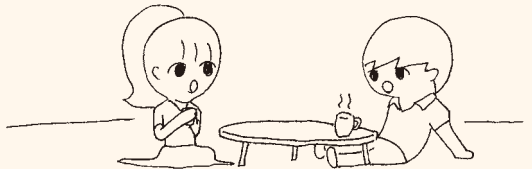
旭川別院カレンダー

新しく別院のカ
レンダーを製作しま
した。令和四年の年
始に配布します。
(既存のカレンダー
希望の方は、別院の
窓口迄お申し出下
さい。)



どうして友引に お葬式やっちゃ いけないんだろう？

マンガ真宗④



幼稚園型認定こども園 旭川別院附属 大谷さくら幼稚園

旭川別院附属大谷さくら幼稚園便り

今年の旭川は、記録を更新する猛暑日が続きました。幼稚園の子ども達は、水分をしつかりと補給し、水遊びを思い切り楽しんだり、エアコンの効いた室内で休息を取ったり、元気に過ごしました。子ども達が植えたお花や野菜が見事に成長しました。朝顔の色水遊びでは、自然が作り出す色に様々な事を感じました。毎日豊かな体験をしています。

スノーファンタジープロジェクト

旭川ガスさんと日本通運さんから、雪の贈り物が届きました！久しぶりの雪の感触に大喜びの子ども達。夢中になって雪遊びを楽しみました。



冷たい感触を確かめる
(0歳児ひよこ組)



トラックに乗ってやって来た雪だるまさん達

食育 わくわくクッキング

パン作り
(3歳児こあら組)



おにぎり作り



ゼリー作り



猛暑に負けず、元気いっぱい！

しゃぼん玉観察
(0歳児ひよこ組)



絵の具遊び
(1歳児りす組)



お水遊び
(2歳児うさぎ組)



泥水遊び
(3歳児こあら組・5歳児きりん組)



流しそうめんづくり
(4歳児ばんだ組)

ん、おいしい！



芝生の草を
そうめんに
見立てます。



おまつりいっしょ

年中ばんだ組はお友達同士で、年長きりん組は自分たちで作った出店に、年少こあら組を招待し、縁日が開催されました！



優しく小さい組さんの
手を引ききりん組さん

金魚すくい(うさぎ組)

ご門徒の声

母に導かれて

門徒

武藤

満



一九九三年六月末。郊外の真新しい病室の一室に臥していた七十九歳の母を車椅子で連れ出して、私と母は施設裏の美瑛川の堤防の小道を散歩した。爽やかな初夏の明るい朝、微風が時々そよぐ。道すがら私は「やっぱ家に帰って暮らそうか」と言いつつ母を見た。母は無言で安堵の表情を見せたのが今でも思い起こされる。私の腹は決まった。それから、母と一心同体の介護生活が始まった。一年、三年、十年と月日は忙しく過ぎ去り、十六年目に入った二〇〇八年六月二十日。とうとう母は肺炎のため急遽入院となり、IVH(食事から摂れない患者さんや体力低下を防ぐ必要のある患者さんの為に高カロリー栄養液を体内の中心に近い太い静脈から継続的に入れる方法)の為に機械を装着して、東向き個室に臥した。窓からは遙か遠く大雪の山々が見えた。私は母に「治ったらすぐに退院するからね」と言いつつ、小高い丘の上にある病室から市内の街並みを眺めていた。しかし、母の病気が治る見込みはなかった。私は幾度も母の耳元に口を寄せて、「もうすぐ家に帰れるからね」と母を励ました。母はショパンのピアノ曲が好きだったので、イヤホンを入れていつも聴かせてあげた。十月十三日午前一時三十分。呼吸が止まり、心電図も直線になった。母は身をもって生死一如を私に示してくださった。母との介護生活から学ばせていただいた事は沢山あるが、自分の思いを「捨てる」ということを学ばせて頂いた。自分の思いを捨てて母と接してみると、母が『法華経』を読む私を慮って、題目を唱えてくれたことに深い感動を覚えた。今思えば、私はそんな母に育てられ、導かれるように母の為に南無阿彌陀仏の御名号を称えさせていただいた十五年半であった。そして仏の光明が今ここに私の私を照らし出しておられることを直覚できつつあるのも、母との介護生活があったからであった。私をここまで育て上げていただいた母に心から敬礼するばかりである。

うどんダ

8月は、猛暑で大変でした。我が家もなんとか夏バテせずに、家族3人元気に過ごすことが出来ました。『和顔愛語』というお言葉がありますが、心穏やかに相手を気遣うということは、自分の思いを掴んでいるとなかなかできません。『私が正しい』という思いが、生活を狭苦しいものにして、和気あいあいと行かせないのしよう。そう考えると最後の敵は自分自身となります。僕の先生は常に「自分を知らない」ということを仰ってくださいますが、親鸞聖人がご自身のことを悪人であるとか煩惱熾盛の衆生であるとか仰っておられることは、この最後の砦である「自分が正しい」という自我さえ砕ければよいのであると聞かれています。自分の性格・気性というものはなかなか改善されるということはないのですが、どのような性格があたわっているにも、「自分が間違っていました」と如来に懺悔する道は、各人に開かれているように思います。

「我が名を称えよ」と如来の方から呼びかけられているとお聞きしますが、考えてみると、自分の事が「間違っている」とは到底言えないのが私たち人間というものではないでしょうか。すぐにあの人間よりはましであるという思いが湧き起つて来ますから救われません。いよいよ救われないのが私であると気づかせて頂いた時に、見えてくる大道というものがあるところにおいて、自ずと申し訳なさや感謝の念が湧きおこるのであると思います。(安居)

真宗大谷派 旭川別院

歴史ある本来の姿での儀式

旭川別院を会場とした葬儀が執り行えるよう準備を致しました。亡き故人とお別れを告げるだけの告別式ではなく、故人との繋がりを大切に、仏教本来の儀式に基づいた葬儀です。どうぞご利用下さい。



大谷ホールは、大きな会場で設備も豊富に備わっております。小規模でなくとも野卓でお葬式をされた方は是非ご利用ください。



使用料 (葬儀・会場費込)

- 各広間 100,000円 (税込)
- 大谷ホール 150,000円 (税込)

※詳細は別院迄 TEL 0166-22-2409